

編集方針

GRI : 2-2, 3, 5, 6

不二製油グループは、ステークホルダーとのコミュニケーションツールとして、「統合報告書」と「サステナビリティレポート」を年次で発行しています。



「統合報告書」は、当社グループの事業全体像および中長期的な戦略を記載し、その内容についてステークホルダーの皆様との対話を重ねることで、企業価値の向上を図ることを目的としています。報告対象範囲は主に連結子会社・持分法適用会社です。一方、「サステナビリティレポート」は「統合報告書」のサステナビリティに関する情報を補完するものであり、当社グループが社会の持続可能性に与える影響に対する考え方や取り組みを、広範なステークホルダーの皆様に対して網羅的かつ誠実に報告することを目的としています。

報告対象範囲	不二製油グループ グループ会社一覧 (PDF形式、2.74MB) 
報告対象期間	2023年度 (2023年4月1日～2024年3月31日) の実績を報告しています。 なおガバナンスについては2024年6月時点の情報に基づき掲載しています。 一部上記期間以外の活動も含まれます。
発行時期	2024年9月6日 (日本語版) 2024年10月30日 (英語、中国語版)
参考にしたガイドライン	GRIスタンダード 本報告書はGRIスタンダードに準拠しています。 IFRS開示基準S1号「サステナビリティ関連財務情報の開示に関する全般的な要求事項」 国際会計基準 (IFRS) 財団傘下の国際サステナビリティ基準審議会 (ISSB) が策定した基準を参考に、ESGマテリアリティの重点項目ごとに「ガバナンス」「リスク管理」「戦略」「指標と目標」で構成しています。
GRIに基づく開示情報の決定方法	「サステナビリティレポート2024」においては、以下の考え方により、持続可能な社会の実現のために当社グループの貢献が期待されるテーマについてご紹介しています。 ① 当社グループのESGマテリアリティ [※] は、マテリアリティマップ上で当社グループが社会・環境に与える影響度が「極めて高い」または社会・環境課題が当社グループに与える影響度が「極めて高い」と評価されたテーマです。これらについては、グループレベルで対応し、情報開示を行っています。 ② ①以外のテーマについても、関連する各社・各部門で対応し、ステークホルダーの意思決定に影響し得る情報を開示しています。 ※ https://www.fujioilholdings.com/sustainability/sustainability_management/

情報の正当性を担保する目的で、スコープ1および2の全CO₂排出量の70%以上およびスコープ3カテゴリ1のCO₂排出量において第三者保証を得ています。

※ 報告書画像からPDFファイルへリンクします。

第三者保証

  **温室効果ガス排出量 検証報告書**

2024年7月16日

不二製油グループ本社株式会社 御中

一般社団法人日本能率協会
地球温暖化対策センター
上級経営管理者 丸尾 智樹

1. 検証の対象及び目的
不二製油グループ本社株式会社（以下「事業者」という。）が作成した算定対象^{※1}における温室効果ガス（GHG）排出量算定結果（2023年度データ CO₂排出量算定報告書）（以下「算定報告書」という。）に記載の2023年度（2023年4月1日から2024年3月31日まで）の以下のGHG排出量情報に関して、事業者は、一般社団法人日本能率協会 地球温暖化対策センター（以下「当協会」という。）に対し、協定の保証を目的とした検証を依頼した。

1) スコープ1 GHG 排出量
算定対象において使用された天然ガス、都市ガス、LPガス、軽油、灯油、ガソリンによって直接的に排出されるCO₂排出量


2) スコープ2 GHG 排出量
算定対象における電力、熱の使用に伴って間接的に排出されるCO₂排出量

検証の目的は、事業者のGHG排出量情報が算定方法^{※2}に従って、正確に測定、算出されているかについて、独立の立場から結論を表明することである。算定報告書を作成しGHG排出量情報を報告する責任は事業者であり、当協会の責任は、独立の立場から算定報告書に記載されたGHG排出量情報に対する結論を表明することにある。

2. 検証手続き
当協会は、ISO14064-3:2019 (Greenhouse gases Part 3: Specification with guidance for the verification and validation of greenhouse gas statements)の要求事項に従って検証を実施し、以下の事項を実施した。

- 算定報告書に記載のGHG排出量を決定するために用いられた情報に関する、算定方法、排出量算定システム、及び、関連資料の確認
- 算定報告書の作成に関与する主な担当者へのインタビュー
- GHG排出量の正確性を確認するためにサンプリングによる機関となる資料の確認

温室効果ガス排出量 検証報告書(24.7.16.2024)	一般社団法人日本能率協会 地球温暖化対策センター 〒100-8032 東京都港区芝浦4-1-12	頁数	1 / 2
----------------------------------	---	----	-------

 **3. 検証の結果**
算定報告書に記載された2023年度のGHG排出量情報は、算定方法に従って、すべての重要な点において正確に測定、算出されていないと認められるような事項は見られなかった。

NOTE:



※1：国内：不二製油株式会社 製油事業所、不二製油株式会社 千葉工場、不二製油株式会社 富原工場、不二製油株式会社 神戸工場、株式会社フジオリーブ、フットランド エニオーフーズ、ハルマジュ エディブル オイル、不二製油（张家港）有限公司、天津不二直自有限公司、フジベジタブル オイル、フタケー チョコレート カンパニー（イースト グリーンビル1期）、ハラルド、フジオイル ヨーロッパ、フジオイル ガーナー

※2：「サプライチェーンを通じて温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドライン (ver.2.0)」及び事業者が作成した「算定手続書」

※3：上記算定対象の検証されたGHG排出量情報は別紙を参照

以上

温室効果ガス排出量 検証報告書(24.7.16.2024)	一般社団法人日本能率協会 地球温暖化対策センター 〒100-8032 東京都港区芝浦4-1-12	頁数	2 / 2
----------------------------------	---	----	-------

  **温室効果ガス排出量 検証報告書**

2024年7月19日

不二製油グループ本社株式会社 御中

一般社団法人日本能率協会
地球温暖化対策センター
上級経営管理者 丸尾 智樹

1. 検証の対象及び目的
不二製油グループ本社株式会社（以下「事業者」という。）が作成した算定対象^{※1}における温室効果ガス（GHG）排出量算定結果（2023年度データ CO₂排出量算定報告書）（以下「算定報告書」という。）に記載の2023年度（2023年4月1日から2024年3月31日まで）の以下のGHG排出量情報に関して、事業者は、一般社団法人日本能率協会 地球温暖化対策センター（以下「当協会」という。）に対し、協定の保証を目的とした検証を依頼した。


1) スコープ3 GHG 排出量
算定対象の事業活動におけるスコープ3 カテゴリ1^{※2}において排出されるCO₂排出量

検証の目的は、事業者のGHG排出量情報が算定方法^{※3}に従って、正確に測定、算出されているかについて、独立の立場から結論を表明することである。算定報告書を作成しGHG排出量情報を報告する責任は事業者であり、当協会の責任は、独立の立場から算定報告書に記載されたGHG排出量情報に対する結論を表明することにある。

2. 検証手続き
当協会は、ISO14064-3:2019 (Greenhouse gases Part 3: Specification with guidance for the verification and validation of greenhouse gas statements)の要求事項に従って検証を実施し、以下の事項を実施した。

- 算定報告書に記載のGHG排出量を決定するために用いられた情報に関する、算定方法、排出量算定システム、及び、関連資料の確認
- 算定報告書の作成に関与する主な担当者へのインタビュー
- GHG排出量の正確性を確認するためにサンプリングによる機関となる資料の確認

温室効果ガス排出量 検証報告書(24.7.19.2024)	一般社団法人日本能率協会 地球温暖化対策センター 〒100-8032 東京都港区芝浦4-1-12	頁数	1 / 2
----------------------------------	---	----	-------

 **3. 検証の結果**
算定報告書に記載された2023年度のGHG排出量情報は、算定方法に従って、すべての重要な点において正確に測定、算出されていないと認められるような事項は見られなかった。

NOTE:

※1：国内：不二製油株式会社、オーム産業株式会社、株式会社エフアンドエフ、海外：フジオイル（シンガポール）、フットランド エニオーフーズ、ハルマジュ エディブル オイル、フジオイル（タイランド）、フレイアデフ インドネシア、フジ グローバル チョコレート (MO)、不二製油（张家港）有限公司、天津不二直自有限公司、巴洛美克力製造（上海）有限公司、フジベジタブル オイル、フタケー チョコレート カンパニー、ハラルド、フジオイル ヨーロッパ、フジオイル ガーナー

※2：カテゴリ1（購入した製品・サービス）：主な製品の原料及び容器包装を対象

※3：「サプライチェーンを通じて温室効果ガス排出量算定に関する基本ガイドライン (ver.2.0)」、「国立研究開発法人産業技術総合研究所 (NIEA Ver.3)」及び、事業者が作成した「算定手続書」

※4：上記算定対象の検証された温室効果ガス排出量は別紙を参照

以上

温室効果ガス排出量 検証報告書(24.7.19.2024)	一般社団法人日本能率協会 地球温暖化対策センター 〒100-8032 東京都港区芝浦4-1-12	頁数	2 / 2
----------------------------------	---	----	-------